

令和6年度第1回東海市子ども・子育て支援会議 議事録

1 日時 令和6年（2024年）7月2日（火）午後2時～午後3時40分

2 場所 東海市役所302会議室

3 出席委員（13名）

会長 中村強士、職務代理者 本多伯舟、古谷仁彦、吉田未来、平松由佳、近藤高史、樋上亜由美、坂田弘毅、八澤佳子、鈴木信恵、田中博美、深谷里枝、田中薫

4 欠席委員（1名）

川北夏代

5 職務のために出席した職員

市民福祉部長 植松幹景、幼児保育課長 小島英泰、同統括主任 宇賀神雄也、健康推進課主任指導保健師 大串文子、こども課長 永井直子、子育て支援センター長兼結婚応援センター長 能登谷宏美、こども課主幹 佐田知子、同統括主任 堤仁勇、同主任 田中恒輝、株式会社サーベイリサーチセンター 山村靖彦

6 公開、非公開の別

公開

7 傍聴者数

0人

8 会議日程

(1) 開会

(2) 報告事項

東海市こども計画策定に係る利用希望把握調査等の結果について

(3) その他

(4) 閉会

9 会議内容

(1) 開会

(2) 報告事項

東海市こども計画策定に係る利用希望把握調査等の結果について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。ただいま説明がございましたけれども、何かありますでしょうか。

(会長)

一つ目として、4種類の調査で、「子育て支援に関するアンケート調査」は、前回のアンケート調査と比較可能ですが、平成30年度調査結果との比較ができる調査項目はこれですべてなのか。二つ目として、それ以外の調査は、国や県で行った類似調査との比較をされたのか。これからする予定なのか。三つ目として、いくつかの調査結果を見ると、クロス集計をする必要があるかなと思いますが、年齢別や学区別、所属別等、こういった作業は、これからするのか、試みたのであれば、いくつか示唆が得られるような結果が出たのか、そのあたりを教えてください。

(事務局)

一つ目について、平成30年度との比較できるところはこれで全てです。二つ目の、国や県の調査との比較ですが、その比較は行っておりません。今のところ今後実施する予定もしておりません。三つ目のクロス集計については、いくつかポイントとして出しているところもありますが、ニーズ量を算出するにあたって、もう少し年齢別データが必要というところもありますので、そういったところはこれから算出していく予定です。

(会長)

ニーズ量の算出に関わらない、2～4の調査については、これから実施するのでしょうか。

(事務局)

はい。すべて出すという予定はなく、必要に応じて実施していきます。

(田中博美委員)

アンケートを受けられた方にとっては、このアンケート自体が結構負担だという意見もありました。このアンケートがどう生かされていくのかというところが知りたいなと思います。また、すぐ変えられそうな意見もあり、例えば兄弟は同じ保育園に通わせたいという意見については、以前の会議でも同じような意見を

出させてもらったことがあります、その時からあまり変わらないんだなっているのを感じています。負担を減らすことを考えるのであれば、変えられることがあるのではないかと思います、変わらないですね。

「こども誰でも通園制度」の項目があったと思いますが、こういう制度を国が進めるからやりましょうではなくて、こどもが預けられた時にこどもの気持ちとして、ちゃんと満たされて過ごせるような環境を整えた上で実施すべきだと思います。今、東海市の保育園でもやっているリフレッシュでも一時保育できるのですが、預けにくいとか、敷居が高いとかいう意見もアンケートの中には出てきているので、どうしたらいいかということを考えていくことが大切だと思います。

(事務局)

今の、「リフレッシュでの一時保育を使いやすく」、「兄弟は同じ保育園に通わせたい」などの個別的な意見については、それぞれの担当課にも見ていただき、全て、すぐにできるというわけではありませんが、できるように考えていただきます。今回のアンケートは、こども計画を作るためのアンケートで、計画にそこまで細かいことは載せませんが、アンケートにお答えいただきましたような細かいことも踏まえた上で、計画としては、全体的な方向性を示す計画を作っていく予定です。目指すところはここなんですというのを示すのが計画で、この下にぶら下がってくる細かい取組などは、それぞれの担当部署で取り組んでいかなければならないということになります。

(深谷委員)

前回のアンケートから計画に活かされた部分を教えてください。また、310 ページの自由意見の下から2番目の意見に、たくさんの目で確認いただけると助かるとありますが、検討の段階でもっと時間があると良いと思いました。私もアレルギーを持つ親の会として活動しているのですが、アレルギーのこともたくさん意見が出ていて、そういう意見も拾って欲しいと思います。こういう細かい意見は関係課に伝わるのかどうかを教えて欲しいです。

(事務局)

関係課には伝わります。ただ、これだけの量がありますので、全体を知っていただくという形で、誰もがみられる形で情報共有しています。前回のアンケートからは、放課後児童クラブの利用を希望する人がどのくらいいるか等数値化し、

計画に反映しました。

(深谷委員)

今回のアンケートは、第三期に向けてということですが、そういう部分はいかがでしょうか。

(事務局)

どう反映させるかについては、皆さんと考えていきたいと思っています。

(近藤委員)

このアンケートの結果は学校の先生にはどういう形で伝わるのでしょうか。子どもに一番近いのは学校の先生だと思いますが、そういった人たちが、子どもが考えていることを客観的に見るのはとても有効だと思います。

(事務局)

小学校や中学校に直接何かをするということはこちらでは考えていませんが、先生によく伝わっているかどうかというところまで確認していなかったのも、学校教育課とも話をして検討していきたいと思っています。

(会長)

欲を言えば、こども家庭庁の案ができる前の段階でこども・子育てに関わる当事者、支援者、当事者であるこども自身に、こういうアンケートの結果に基づいて私たちはこういうふうにしようと思っているけど、いかななものかっていう手続きを、私はして欲しいなと思いました。

まだ、自由意見をしっかり読んでないですが、自由意見は、書きたい人は書いてねっていうものなので、思いが強くないと書かないと思います。だとすると、自由意見で出された市民の意見に対しては、できるだけすぐに応答したほうがいいのではないのでしょうか。

(事務局)

いただいた意見に対してフィードバックしていくことは必要だと思っていますが、今すぐ一つ一つに答えるのは難しいと思っています。計画を作っていく中で、皆さんからいただいたいろいろな意見が、計画にどう反映されたということを見えるようにできたらいいと考えています。

(田中博美委員)

今の、会長のご意見はその通りだなと思いました。特に、こどもたちが上げた

意見に対してリアクションが返ってきたと思えば、東海市に対して期待を持つかもしれないと思います。たとえば今は、部活動がなくなっていて、中学校でも自由参加的な感じになりつつあります。なぜなくなったのか、たぶん子どもたちもあまりよくわかっていないのではないかと思います。私も、学校支援計画にも関わらせてもらっていますが、事後承諾的に報告されて、もう決まっていることで変えられないと言われたりします。

(鈴木委員)

先ほどのお話で、こちらのアンケートは学校教育課には伝わると思うのですが、学校の先生方にも知ってほしいと思います。そういう内容が自由意見にもありました。それぞれの学校でアンケートは毎年やっていますが、やはり他校さんのことを知る機会はないですし、少数の意見はすごく大事にしなければならないと感じました。また、部活動については、昔は強制であったので、それが逆に苦痛であったという声もありました。国として縮小傾向ということですので、東海市としても学校教育課の方から部活動に対してご理解いただくよう文書も出ていたかと思います。

(坂田委員)

今回の会議次第では、この「報告事項」のみですが、今後の予定について、もし決まっているのであれば教えていただけたらと思います。

(事務局)

今後につきましては、日程は未定ですが、次の会議は8月末頃を予定しており、その際にはどのようなつくりの計画になるか等を示した計画の骨子案を出させていただき、それに対して委員会のご意見をいただきたいというのが次のステップです。そこで大枠をある程度決めさせていただいた後、もう少し細かな施策などを決めていくという形になります。さらにその次は、11月頃を予定していますが、完成形に近いような状態のものをご覧いただき、そこでご意見をいただき、その後にパブリックコメントという形で、市民の皆様からご意見をいただくというのを12月から1月ごろに実施し、その意見を反映させた後に、今年度中に完成をめざすというのが大まかな予定です。

(坂田委員)

そうすると、この場では、ここから読み取れることについての質問だけをさせ

ていただければいいのか、次回の案を作るにあたって、私たちの目線から見た意見が欲しいとかっていうことはあるのでしょうか。

(事務局)

まだ骨子案を作成中ですので、どこまでのご意見を反映できるか明確には言えませんが、この時点でイメージできる部分についてのご意見をいただけるとありがたいです。

(本多委員)

学校だけでなく、幼稚園、保育園にもぜひ知らせていただけたらと思いますし、いろいろなところで周知していただければと思います。今、ご質問がありましたが、今後の予定に関して、次の会議までに、完成するまでの大まかなスケジュールを決めていただければいいと思います。例えば、需給関係に関しては実態に合っているのかという細かな計画の検討は事務局さんの方でやっていただくことになると思いますが、それに対して我々が意見を言った時点で既に決まっているということにならないようお願いできたらなと思います。また、細かいことで恐縮ですが、アンケート作成の時に、「就学前」という言葉については、幼稚園も学校なのでという話をしましたが、「就学前」という言葉がたくさん出ているのはちょっと残念でした。

(古谷委員)

258 ページの問 5-1 は、年齢によって回答が異なると思います。16～19 歳と、30～34 歳では、「まだ結婚するには早いと思う」という回答にも当然差があるので、そのあたりの分析も必要かと思います。あともう 1 点、173 ページで、児童館が利用されていないということでした。こどもたちの居場所として、児童館や放課後児童クラブの充実を検討してほしいと思います。305 ページの自由回答にもご意見がありますので、検討してほしいと思います。

(樋上委員)

学童保育を運営している者です。この自由意見を読んで、うちのこと言っているのか、公立のこと言っているのかわかりませんでした。職員にも周知して、今後の運営に気をつけていかなければならないかなと思います。自由意見には、給食に関するものや外で遊ばせてもらえない等の意見があり、もっとこどもに目を向けて欲しいなと思います。数十年前と今と、児童クラブの環境も変わってな

いのはなぜだろうと思います。この意見を少しでも取り入れていただいて、こどもにとって楽しい児童クラブであって欲しいなと思います。

(本多委員)

第二期の計画が残り少なくなっていますが、この計画の成果の評価はされますでしょうか。

(事務局)

毎年8月に実施していますので、その時に、現計画の評価、令和5年度分の指標の評価結果を示させていただく予定です。

(本多委員)

それを踏まえて次期計画を策定していくのか、それを参考しながら、同時並行でやっていくのか。

(事務局)

同時並行です。今の計画とは別に、次期計画の検討に入っています。

(田中博美委員)

計画は、1期が5年間ありますが、計画策定は最後の1年でやらないとできないものなのですか。もう1年前にアンケート調査を実施して、でてきた意見をしっかりみんなで精査して、その上で意見をくださいっていわれればこれについてはどうですかというような質問をもっとじっくりさせていただくこともできると思いますが、時間がないと十分に意見を出せないと思います。

(事務局)

当初は、第3期の「子ども・子育て支援事業計画」として策定する予定でしたが、国からこども計画の策定が努力義務化され、「子ども・子育て支援事業計画」と「こども計画」を1年ずらして進行管理するというのも効率が悪いので、併せて、作ろうということに決めました。去年のアンケートも、もっと早い時期に実施できるとよかったのですが、国のこども大綱をふまえてということがありましたので、こども大綱の策定を待っていたこともあり、タイトなスケジュールとなり申し訳ないと思っています。今後、骨子案や計画を作っていく際には、なるべくご迷惑をおかけしないよう、努力をさせていただきますので、ご理解いただければと思います。

(八澤委員)

次の計画は何年計画なのでしょうか。

(事務局)

5年計画です。

(田中薫委員)

兄弟を同じ園に通わせたいという話がありましたが、そうなると定員から見直さなければならなくなると思います。国の基準との関係もあるので、枠を広げていけないと難しいと思います。

(平松委員)

はじめての参加で、こういう会議をしていることも知らなくて、たくさん会議をしていただき、こうして検討していただいていることがわかりました。

(会長)

計画があることはご存じでしたか。

(平松委員)

知りませんでした。

(吉田委員)

私もアンケートに答えた立場ですが、こういうことがあるからアンケートが来たとか、そういうことは知りませんでした。現実的に、こどもたちが児童館に来ることが少なくなってきていて、児童館を充実させたほうがよいのではという意見もありました。私も、ボランティアで児童館のイベントに携わっている立場としては、コロナが蔓延してからは、飲食が館内ではできなくなってしまい、イベントのやる範囲を決められてしまっています。児童館自体を知らないという人も多いので、知ってもらえたらいいとは思いました。

(深谷委員)

報告書を読んで、気になったところに付箋をつけたりしていたのですが、何を質問したらいいのかよくわかりません。自由意見をいろいろ見ていると、私自身もいろいろな課にお願いしたことがありましたが、担当課に伝わっている感触が全くないので、気にしていただいたり、考えていただいたりしてほしいと思います。

(田中博美委員)

三期もこういった冊子が作られる予定でしょうか。

(事務局)

こども計画として作成予定です。

(田中博美委員)

これは各家庭に配布されるんですか。

(事務局)

各家庭への配布は行いません。ホームページには掲載します。

(田中博美委員)

だから計画をご存知なくても当たり前ですよ。自分から求めて得ようとしないと、目にも触れないし、情報が得られないということです。冊子にするのであれば、読んでいてわかりやすいとか、読んでいてわくわくするような、そういう内容であれば、自分から求めてくださいといっても取りやすくなるかと思います。

(中村会長)

提案ですが、「こどもまんなか社会」を東海市が目指すのであれば、やっぱりこども自身あるいは子育て保護者当事者に意見を聞きながら作ることが必要だと思います。この会議のメンバーだけでもこれだけのこども子育て支援に関わるフィールドがあるので、少なくともこの中で可能なグループ団体のところで、事務局の皆さんがこどもにヒアリングを行ったり、お父さんお母さんにヒアリングするって機会ができないかなと思いました。

(事務局)

今回はこのアンケートの報告だけですが、そういった現場に行って実際に声を聞くという取り組みは考えてはおります。

(中村会長)

骨子ができたところで、その時点での考えに対して意見を求めたほうがいいのではないのでしょうか。

(事務局)

それはパブコメのような形でということでしょうか。

(中村会長)

ちゃんとまとめて、こういうふうにしていきたいということを示して、ぜひご意見聞かせてくださいという形がよいのではないのでしょうか。

(本多委員)

出されている意見についても、お金を使えば何とかなるんじゃないかっていうのがあると思います。兄弟入所なんて、そんなに難しいことじゃないと思います。各園の定員はどうしようもない話ですが、どう入所を決めるかは、市としてはそんなに大変じゃないのではないかと思います。やっている市町村はたくさんあります。施設が「古い」というコメントもたくさんありますが、お金かければ新しくなります。子育てするなら東海市って聞きますが、じゃあ子育て予算がどれくらいなのか、この会議に出していただいてもいいんじゃないかと思います。

(事務局)

評価の時には報告させていただきます。

(本多委員)

幼稚園の1事業者として言えば、他の市町村はもっと補助金があり、東海市は補助金が少ないと思います。市の負担もあるので一概に上げないっていうのもありますし、他の市町村はやってないが東海市が出してくれているのもたくさんあるので一概には言えないのは当然わかっているんですが、お金のことも必要だと思いますので発言させていただきました。

(中村会長)

はい。そうしましたら続いて、次に行きたいと思います。次第の3番目その他について事務局からお願いします。

(3) その他

(事務局)

その他は特にございません。

(4) 閉会